

令和5年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

可能性への挑戦！ ICHI∞KA ～進路実現への取組み 100% 部活動への取組み 100% 学校行事と自主活動への取組み 100%～

- 多様性を理解し、主体的に判断し、他者と協働できる力をもって“変化の激しい時代を元氣よく生き抜く生徒”を育てる。
- 1 少人数授業を特色とする全日制普通科単位制で、一段高いレベルの希望進路を実現する。
 - 2 伝統の部活動と主体的な学習の両立を通じ、自分で判断する力、自分で考えて行動する力、最後まで諦めない力を育む。
 - 3 学校行事と自主活動を通じ、創造する力と心の豊かさを育む。

2 中期的目標

1 少人数授業を特色とする全日制普通科単位制で、一段高いレベルの希望進路を実現する。

(1) 生徒が安心して国公立大学や難関私立大学をめざすことができる環境をつくる。

- ア 授業・講習・個人指導・資格試験等のバランスのとれた教育課程マネジメントのもと、生徒の第一希望の進路を実現する。
イ 進路および履修のガイダンス機能を高め、生徒一人ひとりの自己理解と意思決定を支援する。
ウ 全日制普通科単位制が一段高いレベルで希望進路を実現できる課程であることを情報発信し、中学生の進路選択に資する。

(2) 知識・技能の定着を図るとともに、思考力、判断力、表現力を育む授業を行う。

- ア 日々の学習態度を整え幅広い知識をつけるため、朝の読書時間を設け実践する。
イ 思考力・判断力・表現力を育むことをテーマとした公開授業や授業研究の機会を設け、全ての教員の授業力を高める。
ウ 進路指導や学力向上に特色ある取組みを行っている学校や教員の情報を収集・共有し学校経営に反映する。
エ 学習支援クラウドサービス等を活用し、様々な学校環境下での学びを強化する。

(3) 安全で安心な学校をつくる。

- ア 年度の早い時期に生徒面談を行い、担任団・学年団で生徒情報の共有と共通理解を図り、適切な支援と不登校の未然防止を行う。
イ 学年会議や職員会議で生徒情報の共有と共通理解を図り、必要に応じ「個別の支援計画」を立て適切な支援を行う。
ウ 生徒の出欠や遅刻状況を「見える化」し、支援を必要とする生徒に適切な支援を行う。
エ 感染症予防体制を徹底するとともに、感染発生時には組織として迅速に対応し、生徒一人ひとりの心身の安全安心を守る。
オ 学習支援クラウドサービス等を活用し、特別な支援を必要とする生徒に適切な支援を行う。

※進路実績 国公立大学合格者数を伸ばし、R7には40名にする。(R2 32名 R3 34名 R4 36名)

※生徒向け学校教育自己診断「授業の分かりやすさ」の肯定的回答率を毎年引き上げ、R7に向け85%超を保つ。(R2 75% R3 81% R4 87%)

※年間30日以上欠席する生徒数を毎年減らし、R7には20名以下にする。(R2 32名 R3 28名 R4 35名)

2 伝統の部活動と主体的な学習の両立を通じ、自分で判断する力、自分で考えて行動する力、最後まで諦めない力を育む。

(1) 部活動と主体的な学習が両立する環境をつくる。

- ア 部活動が安全・円滑に運営されるよう適切な活動時間の設定や指導者の確保など環境の整備に取り組むとともに、生徒が主体的に自学自習する習慣を身につけ、部活動と学習活動が両立するメリハリの効いた環境をつくる。

(2) 部活動を通じ、自分で判断する力、自分で考えて行動する力、最後まで諦めない力を育む。

- ア 部活動を通じ、100%の力を発揮できる心身を育成する。
イ 部活動において他校生との交流や地域行事への参加をすすめ、地域に愛される学校をつくるとともに生徒の自己肯定感を高める。

※生徒向け学校教育自己診断「進路実現への取組み」の肯定的回答率を引き上げ、R7には85%にする。(R2 77% R3 83% R4 82%)

※生徒向け学校教育自己診断「部活動への取組み」の肯定的回答率を引き上げ、R7には90%以上をめざす。(R2 89% R3 87% R4 89%)

3 学校行事と自主活動を通じ、創造する力と心の豊かさを育む。

(1) 総合的な探究の時間を充実させる。

- ア 国際、地域、防災、人権の学習を通じ多様性を理解し、他者と協働して物事に取り組む力を育成する。また、その一環として地域の文化・産業を体験する修学旅行を企画し実施する。
イ 総合的な探究の時間において学校としてのアーカイブを整備し、より効果的に探究に取り組める体系を確立する。

(2) 学校行事や自主活動への主体的な取組みをすすめ、生徒の達成感や自己肯定感を高める。

- ア 体育祭、文化祭、合唱コンクール等を通じ合意形成の進め方を学び、決めた合意やルールを遵守し他者と主体的に協働できる生徒を育てる。
イ 特別で上質な行事体験（古典芸能やクラシック音楽などの鑑賞）を通じ、芸術芸能文化に関する豊かな感性を養う。
ウ 国内・海外での語学研修や大学等が実施するコンテストなど自主活動への参加をすすめ、多様性への理解や表現力・コミュニケーション能力の向上を図る。
エ その他校外・地域の機関や団体と連携し、生徒にとって有益な活動の機会を提供する。

※生徒向け学校教育自己診断「多様性理解の充実度」の肯定的回答率を、引き続きR7まで95%に維持安定させる。(R2 95% R3 95% R4 94%)

※生徒向け学校教育自己診断「総合的な探究の時間の充実度」の肯定的回答率を毎年引き上げ、R7には95%にする。(R2 91% R3 92% R4 93%)

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和5年12月実施分]	学校運営協議会からの意見
学校教育自己診断の生徒の肯定的回答率 ()内は前年実績 ■全21項目平均 ■3%以上、上下動した項目	■第1回 ■第2回 ■第3回

3 本年度の取組内容及び自己評価

(※ 学校教育自己診断に基づくチェック項目)

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標 [R4年度値]	自己評価
1 少人数授業を特色とする全日制普通科単元制で、一段高いレベルの希望進路を実現する	(1) 生徒が安心して国公立大学や難関私立大学をめざすことができる環境をつくる。 (2) 知識・技能の定着を図るとともに、思考力、判断力、表現力を育む授業を行う。 (3) 安全で安心な学校をつくる。 働き方改革の推進 ※教員のモチベーション向上にむけての取組み	(1) ア 授業・講習・個人指導・資格試験等をバランス良く計画的に実施し、生徒の第一希望の進路を実現する。 イ 進路・履修ガイダンス機能を高める。 ウ 普通科単元制の魅力を情報発信し、中学生の進路選択に資する。 (2)ア 学級文庫を充実させ、朝の読書時間を通じ思考力の基盤となる幅広い教養と読解力を育む。 イ～ウ ・他校の取組みを研究し、公開授業や授業研究を通じ、教員の授業力を高める。 エ 学習支援クラウドサービス等を日常の指導に活用する (3)ア～イ ・学びに向かう環境を整えるため、生徒の状況について、学校(学年、保健室、教育相談、生徒指導担当者)及び保護者の情報共有の機会を設け、必要に応じて「個別の支援計画」を作成し、組織的な支援を行う。 ウ 遅刻指導の方針を明確にし、遅刻や欠席のない自律的な生活習慣をもった生徒を育成する。 エ COVID-19の影響から得た教訓を生かし、生命と社会を大切にすることを育む。 オ 生徒支援のルールを設定し、学年とSCとの情報共有を軸に関係機関と幅広く連携しつつ運用する。 教育課程マネジメント等を進めるなか、教職員が互いに資質を高め合う同僚性の高い職場環境を作り、時間外勤務時間を削減に努めるとともに、意欲を持って生徒と向き合える時間を拡充し、進路実現を支援する。 職場におけるハラスメントの防止。 全校一斉定時退庁日	(1) ア 入学時の生徒の学力と過去4年の実績を考慮し、下記の人数を目標とする。 国公立大学 40名 [36名] 難関私立大学 130名 [128名] イ 進路指導やガイダンス充実度 ※問16 85%超を維持[91%] ウ 志願倍率 1.1-1.2倍[1.24倍] (2)ア 朝読関連の意識調査 [知識の幅が広がった]40% [36%] イ～ウ ・市岡高校の授業は分かりやすくなるためになる。 ※問3 80%超を維持 [87%] ・先生は教え方に様々な工夫をしている。 ※問4 80%超を維持 [89%] ・生徒授業アンケートの5つの評価軸の学校平均値 3.3超を維持 [3.38] エ 学習支援クラウドサービス等の平時での活用率 80%超を維持 [88%] (3)ア～イ ・年間30日以上欠席生徒数を前年比10%減とする。 [35名] ウ 遅刻生徒の延べ人数を前年比10%減とする。 [11.9名/日] エ・命を大切にし、違いを認め合い、共に成長できる学校である。 ※問10 90% [94%] オ ・担任以外の先生にも相談できる ※問8 70% [74%] ストレスチェックの職場評価報告書の総合健康リスク値を大阪府立学校平均 98以下に維持安定させる。 [87]	

<p>2 伝統の部活動と主体的な学習の両立を通じ自分で判断する力 自分で考えて行動する力を育む</p>	<p>(1) 部活動と主体的な学習が両立する環境をつくる。</p> <p>(2) 部活動を通じ自分で判断する力、自分で考えて行動する力、最後まで諦めない力を育む</p>	<p>(1) ア 生徒が自主的に部活動を運営できるよう指導者が支援を行うとともに、ノー・クラブデーの着実な実施など、授業外の学習時間の確保と自学自習の習慣の確立に取り組む。</p> <p>(2)ア～イ ・コロナ感染症への適切な対応を行いながら、生徒が主体的に部活動に取り組み、達成感と自己肯定感のもてる環境をつくる。</p>	<p>(1) ア 進路を実現する学習に取り組んでいる。 ※問2 80%超を維持 [82%]</p> <p>(2)ア～イ ・部活動加入率 80%超[82%] ・部活動や体育祭等の自主活動によく取り組んでいる。 ※問6 85%超を維持[89%]</p>	
<p>3 学校行事と自主活動を通じ 創造する力と心の豊かさを育む</p>	<p>(1) 総合的な探究の時間を充実させる。</p> <p>(2) 学校行事や自主活動への主体的な取り組みをすすめる、生徒の達成感や自己肯定感を高める。</p>	<p>(1)ア～イ ・総合的な探究の時間において、防災、多様性理解、進路について3年間通して学習し、これからの社会でよりよく生きるための心の豊かさを育む。3年次には、自ら選んだテーマについて学びを深める。 ・人権についての職員研修を実施する。</p> <p>(2)ア～エ ・体育祭、文化祭、合唱大会等の学校行事や校外での自主活動を通じ、主体的に他者と協働する楽しさを体験させ、協働する力を育成する。</p>	<p>(1)ア～イ ・多様性理解の充実度 90%超を維持 ※問13 [94%] ・総合的な探究の充実度 90%超を維持 ※問14 [93%] ・人権についての職員研修を年1回実施する。</p> <p>(2)ア～エ ・学校行事の満足度 90%超を維持 ※問5 [95%] ・地域や小中学校との交流やボランティア活動等に参加する機会がある。 ※問17 40% [37%]</p>	